



村の中に
風の音が響き合う。

四国村の風鈴【高松市】

各地から、かやぶき屋根の古民家などが集められている四国村は、夏の装いとして数百個の風鈴が飾られる。優しい風の音に癒やされる。



川と森とアウトドア。

柏原溪谷【綾川町】

香川の中央部を流れる綾川の上流にある自然豊かな渓谷。川のすぐ隣に木々が茂るキャンプ場があり、川遊びと共にアウトドアを楽しめる。



水と風と

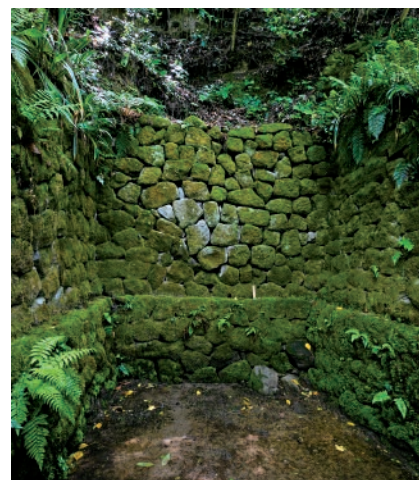
。清らかな水の流れは暑さを忘れさせ、一陣の風は涼しさを運ぶ。夏の盛り、自然を感じながら水と風に遊ぶ。



絶えず湧き出る尊い水。

唐櫃の清水【豊島】

ひな壇のように積まれた石積みの水場に、こんこんと美しい水が湧いている。どんなに日照りが続いても絶えたことがない命の水である。



山を登った先にある
天然のクーラー。

志保山の風穴【三豊市】

風穴とは、いつも風が通り抜けている洞窟のこと。志保山の山麓にある風穴は、炎天下でも15度前後の冷たい風が吹いている。



懐かし 旅する こころで 夏。

香川には、どこかで忘れてきた懐かしい夏の風景が残っている。木々が茂る古民家の縁側に座れば、木陰の心地よさに気が付く。のれんを揺らす風は、涼やかな風鈴の音を届けてくれるだろう。ところでんのだ越し、サイダーの刺激は爽やかに暑気を払う。素朴だけど豊か。日本の心を再発見できる香川の夏を誌面で届けたい。

あゆ 鮎返りの滝【三豊市】

小さな清流が白い糸となって流れ落ちる美しい滝。木々の影に守られて日差しが届かないため、このあたりの気温は低い。川遊びも楽しめる。

画像提供：三豊市観光交流局



不思議な異国感に包まれる。

むれすずめ【高松市】

築100年の日本家屋を改装した民泊の宿。モロッコラグやランプが不思議にマッチする世界観に魅了される。市街地の向こうに屋島を望む眺望が美しい。



古民家の安らぎ。

島や里山の自然の中にある古民家の宿は祖父母の家を訪れた遠い記憶を思い出す。



のんびりおおらかに。

麻の宿【三豊市】

のどかな田園風景の中にある1棟貸しの宿。昔ながらの農家の雰囲気そのまま留めており、祖父母の家のおおらかである。



暮らすように宿泊する町家。



こまち 古街の家【宇多津町】

港町として栄えた宇多津町の旧市街地にある町家を、古民家再生のエキスパートとして知られるアレックス・カー氏がプロデュースした。町に暮らしているような気分になれる。



島の恵みを心と体で味わう。

島宿真里【小豆島】

しょうゆ蔵が立ち並ぶ通りの先にある古民家を改装した宿。懐かしい佇まいの中で、島特産のしょうゆを中心に据えた会席料理を味わえる。



静かな海、オリーブの香り。

こまち 海音真里【小豆島】

島宿真里の別邸として新築。小豆島産オリーブオイルを和食に取り入れたオリーブ会席でもてなしてくれる。すぐ前まで瀬戸内海が迫る部屋で、波音と共にくつろぐ時間がほしい。



夏をさらっと気持ちよく。

ぼたおり
保多織の浴衣【高松市】

保多織は、江戸時代に高松藩から幕府への献上品として作られていた織物。通気性、吸湿性がよく、浴衣に仕立てればさらっと気持ちよく過ごせる。



日常で履きたくなる下駄。

きりげた
桐下駄【さぬき市・高松市】

かつて香川は桐下駄の名産地であった。和装に合う定番のものだけでなく、現代の服装に似合う新しいデザインのものも人気である。



風土から生まれた青と緑。

あじいしがらす
さぬき庵治石硝子・
オリーブ硝子【高松市】

香川の特産品を溶かして美しい色を生み出すガラス細工がある。庵治石の粉を溶かせば青い「さぬき庵治石硝子」に、オリーブの枝葉を溶かせば緑の「オリーブ硝子」になる。

服装や小道具で暑さを楽しむことこそ日本人の心意気。職人の丁寧な技から生み出された涼やかな県産品が夏を彩る。

涼なる県産品



その手の中に
涼しさを。

丸亀うちわ【丸亀市】

江戸初期から続く伝統の工芸品。一本の竹を割いて骨にして、和紙を貼って作る。デザインも大きさもさまざま。これこそ持ち歩く「涼」である。



風と共に響く透き通る石の音。

カンカン石の風鈴【坂出市】

香川県の一部の地域でのみ採掘できる石・サヌカイト（カンカン石）は、叩くと透き通った金属音がする。楽器としても用いられるほど美しい響き。



あの夢の味をもう一度。

みかん水【三木町】

果汁を飲料に加える技術がなかった時代に生まれた、みかん果汁を模したドリンク。80年以上変わらない味が現役で販売されている。



職人の技が生きる、永遠の夏の味。

そうめん【小豆島】

約400年前に製法が伝わった小豆島のそうめん。天日干しする前の生そうめんや、オリーブそうめんなど、新顔が加わっても、一口すすれば、過ぎた夏を思い出させる。

清涼を味わおう。



爽やかな時をビンの中に。

オリーブサイダー【小豆島】

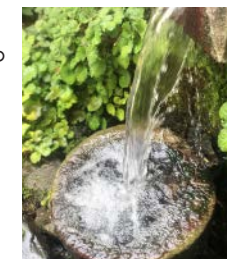
レトロなビンに詰められている、ほのかなグリーンの炭酸水。すっきりした味が気分を切り替えてくれる。グラスに注ぐと、さらに美しい。



清流のようなのど越し。

ところてん【坂出市】

四国霊場七十九番札所「天皇寺」の近くには伝説の湧き水がある。そのそばで江戸時代から作られるところてんは、水のように清らかな味わい。





アート県として知られる香川に、フランス発祥の現代サーカスを地域の文化と結びつけた新しい芸術が育っている。試行錯誤しながらその芸術を創造してきたのは、活動10年を迎えた瀬戸内サーカスファクトリーだ。

主宰する田中未知子さんは、出身地の北海道で現代サーカスと出会い、体一つで圧倒的な芸術を生み出すアーティストの生きざまに衝撃を受けた。渡仏して取材した内容を書籍にまとめ、瀬戸内国際芸術祭2010ではパフォーマンスアーティストの運営責任者に、より深く関わるうち「日本に現代サーカスの拠点をつくらう」と決意する。

旗揚げの場所は香川県。芸術祭でできた縁だが、田中さんの心をつかんだのは現代アートだけではない。「香川には、普段は別の仕事をしている人が稽古を重ね、獅子舞や、農村歌舞伎など地元の芸能に携わる伝統があります。生活に近い土の匂いをする芸能が受け継がれる地域性にポテンシャルを感じました」。

2011年に活動をスタート。翌年、ことடன்（高松琴平電気鉄道）の整備工場での公演をプロデュースし、2015年から19年までは、現代サーカスのフェスティバル「SETORA・ピスト」を毎年開催した。フランスのサーカスカンパニーとの合同公演や、国内アーティストを招いたスチール製の大きな舞台装置でのパフォーマンスは、現代サーカスを初めて見る人々を非日常へと引き込み、話題になった。

世界が静まった2020年、瀬戸内サーカスファクトリーも歩む方向を変えた。

「コロナ禍以前から、小さな組織が国内外のアーティストを招いて大規模なフェスを続けることに無理が生じていました。今までと違う展開を模索す



るうち、地域の内側にもっと入り込めば、ここだけのユニークな芸術が生まれると気付いたんです」

同年からスタートしたのは、県内各所を巡業するような「Yona Yonaサーカス2020」。例えば古い酒蔵を改装したレストランで、老舗の旅館で、お城の敷地内で天守閣を背に行うパフォーマンスは、その場の空気をはらむ特別なものになった。さらに、場所を提供してくれた企業や自治体とは、今後も手を携えるパートナーの関係ができた。

「大都市だけでなく、世界のさまざまな地方都市に、そこに暮らす人がつくるアートがあるのとても豊かなことです。その一つとして現代サーカスを香川に根付かせたい。力を貸してもらえたり人や組織が増えれば、文化が育ちやすいと感じています」

2020年8月には、三豊市にある廃校の体育館を、現在の所有者である土木建築会社から無償で借り受け、クリエイションセンターを置いた。そこにパフォーマンスを呼び寄せて練習場所を提供。アシエイト・アーティストとして共に作品づくりも行えることでオリジナルなサーカスの創造が容易になった。

活動が10年になっても、まだ何かを始めたばかりのような情熱を持つ瀬戸内サーカスファクトリー。サーカスと地域を結び、まだ誰も見たことのない芸術を目指し続ける。



われらの町に 現代サーカス

訓練された体の、自在な、時にアクロバティックな動きで、空間に異世界を創造する現代サーカス。空中ブランコやジャグリングなど、いわゆるサーカスの技術を取り込んだ、身体で表現する芸術だ。香川県には、日本の現代サーカスに道を付ける「瀬戸内サーカスファクトリー」がある。



右から、エアリアルの日本の第一人者で、三豊市出身の長谷川愛実さん。一般社団法人瀬戸内サーカスファクトリー代表理事の田中未知子さん。シルホイールとダンスの野瀬山瑞希さんと谷口界さん。アシエイト・アーティストとして、エアリアルの吉田亜希さんもいる。
瀬戸内サーカスファクトリーウェブサイト <https://scf.or.jp>



県内2カ所でサーカス教室「リパティ☆キッズジム」を定期開講。地域の子どもの自由な体と心を育てる。



閉校した小学校の体育館をクリエイションセンターに。





映画監督

石川 慶

1977年生まれ、愛知県出身。ポーランド国立映画大学で演出を学ぶ。2017年に公開した『愚行録』では、ベネチア国際映画祭オリゾンティ・コンペティション部門に選出されたほか、新藤兼人賞銀賞、ヨコハマ映画祭、日本映画プロフェッショナル大賞では新人監督賞も受賞。恩田陸の傑作ベストセラーを実写映画化した音楽青春ドラマ『蜜蜂と遠雷』（2019年公開）では、毎日映画コンクール日本映画大賞、日本アカデミー賞優秀作品賞などを受賞。その他の主な映画監督作には短篇『点』（2017年公開）がある。



人類史上初めて永遠の命を得た女性の人生を描く、驚嘆と不思議（＝センスオブワンダー）に彩られた、壮大なるエンターテインメント

『Arc アーク』
公開：6月25日（金）全国ロードショー
配給：ワーナー・ブラザース映画
©2021 映画『Arc』製作委員会

知事 国内外の映画祭などで数々の賞を受賞されている石川監督の最新作『Arc アーク』は、香川県でメインロケを行い、いよいよ6月25日公開予定となりました。

石川 映画『Arc アーク』の原作は、世界的に注目を集めるSF作家、ケン・リュウさんの短篇作品「円弧」です。平たく言ってしまうえば「不老不死」のお話ですが、これまでよりもっと科学的に捉えた近未来のお話。現在は、アンチエイジングといって、加齢を遅らせることができる世の中になってきました。その延長線上にあるストップエイジング、つまり加齢を止めることができたなら、人類はどのような未来を選択するのでしょうか。そのストップエイジングの施術を初めて受けたリナという

墨画のような鳥々が浮かんで見えます。なおかつ波がない。まさに神話が宿っている風景に見えました。実際に香川県に足を運ぶと、瀬戸内海の風景のみならず、素晴らしい建築物が数多くあり、これなら小豆島と高松、つまり香川県の中でこの話の世界観が十分に成立すると思ったのです。

知事 おっしゃるように香川県は瀬戸内海の自然のみならず、名建築を誇る土地柄です。特に1958年に竣工した香川県庁舎東館は、世界的建築家・丹下健三の代表作であり、戦後の民主主義を具体化した建築物といわれています。1999年には、近代建築の記録と保存を目的とする国際学術組織「DOCOMOMO Japan」によって、「文化遺産としてのモダニズム建築20選」にも



香川県知事

浜田 恵造

川県の名所に足を運んでいただきたい。また、毎年2月に「さぬき映画祭」を開催しています。上映会だけでなく、映画・映像の制作に携わる人材の育成にも取り組んでいます。

選ばれました。小豆島は、1954年に公開された日本映画不朽の名作の一つ「二十四の瞳」のロケ地としてもよく知られています。映像作品においては、ストーリーや役者はもちろん、舞台となる場所の風景や文化といったものもとても重要ないように感じます。

石川 「二十四の瞳」はもちろん、最近では「八日目の蟬」も見ましたが、やはり小豆島は唯一無二の場所という感想を持ちました。木下恵介監督の「二十四の瞳」は白黒映像でした。「Arc アーク」も小豆島では、モノクロで撮った場面が多いのですが、空と海のコントラスト、そこに白い道がずっと延びている。あれはモノクロにすごく映えますね。太陽の強さがここだけ少し違うのではと思ったりします。

知事 瀬戸内海の光は、岡山側と香川側からでも見え方が違うといわれ、独特の風景を描き出します。今回の撮影では、県民がエキストラなどとして参加し、讃岐弁で出演しているシーンもあると伺い、こうした機会が香川県の文化振興につながるものと、大変感謝しています。映画の公開に併せて「香川フィルムコミッション」が、ポストカードやロケ地マップなどを制作しました。コロナ禍が過ぎれば、ぜひロケ地となった香

女性の二代記、というのが大枠のあらすじです。**知事** 人類は12.5歳まで生きられるともいわれる時代です。その先にある不老不死の世界を垣間見ることができるのは非常に興味深いですね。今回の映画では、香川県におよそ1カ月滞在して撮影が行われたと伺いました。

登場します。実際にカメラのフレームを構えてみると、どちらを向いても絵になり、考え尽くされた建物なんだと感心しました。ケン・リュウさんの「円弧」という作品には、どこか神話的な雰囲気が出ていて、イメージしたのが地中海やギリシャでした。そこで、日本なら瀬戸内海や小豆島があるじゃないかと思いつき、香川をロケ地に選びました。僕は愛知県の豊橋の生まれで、水平線までずっと何もないのが海という印象を持って育ってきました。ところが瀬戸内海は、水

「不老不死」の舞台となった香川県

知事対談 石川慶 × 浜田恵造



香川県庁舎東館で撮影されたワンシーン。映画の印象を決定づける重要な場所として登場する。
©2021 映画『Arc』製作委員会

石川 全編、香川県での撮影となり、多くのエキストラや地元役者さんにお世話になりました。建物や風景のみならず、香川県に住んでいるみなさんの空気感がこの映画を作ったのだと思います。直接お会いして、お礼を伝える機会があればと願っています。みなさんのおかげもあり「Arc アーク」は、年齢に関係なく受け取るものがあり、考えるべきことが詰まった作品に仕上がりました。ぜひ劇場に足を運んで見ていただきたい。

知事 映画館の大スクリーンでなければ味わえない感動がありますからね。大画面でご覧いただき、香川の美も堪能していただきたいですね。映画の公開を心から楽しみにしております。本日はありがとうございました。

※ 今回の対談は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで実施しました。

1600年(慶長5年)に始まったという丸亀うちわは、こんびら参りのお土産として人気を博し、全国のうちわ生産量の9割を占めるまでに育った。その陰には、一本の竹から幾十ものうちわの骨を作り出し、鮮やかに和紙を貼って形を整えるという繊細な職人の技がある。「サヌキモノウチワ」の作り手である兵頭恵子さんも、そうした職人の一人である。16年前に職人の技を継承するための「丸亀うちわ技術技法講座」*を受講し、それ以来、うちわづくりを学び続け、今では香川県伝統工芸士の資格を持つ。

兵頭さんに、新しい丸亀うちわづくりのためのコラボレーション企画が持ち込まれたのは2013年。「私には荷が重い」と一度は参加を断ったのだが、その心を動かしたのはオビカカズミさんの作品だった。

オビカさんは、それまで当たり前のようだった香川の食や文化を、県外の人々が次々と褒めてくれたことで、ふるさとの魅力に気付いた。オビカさんの描く讃岐モチーフはどれも表情豊か。兵頭さんはその作品を見てうちわのデザインとして、こんな形にしたら面白い、とアイデアが湧いてきた。何より二人は気が合った。姉妹のように親子のように気兼ねなく語り合い「サヌキモノウチワ」の作品が次々と生まれる。



「サヌキモノウチワ」のロゴマークはオビカさんが制作したもの。

2014年には、かがわ県産品コンクールで審査員特別賞を受賞。お土産に、インテリアにと、各所から引き合いがあり、当初五つだったデザインは現在、十数種類になった。

オビカさんは、讃岐モノの愛嬌たっぷりの表情をデザインに込める。時には色や形の駄目出しをすることもあったという兵頭さんは、オビカさんの絵をにらんで唯一の形を模索する。讃岐ならではの絵柄に加え、懐かしの鳥フェリーやローカル電車も登場した。「乗り物が好きなので、次は列車を描いてみたい」と夢を膨らませるオビカさん。「今年こそは来年の干支を早く描いてね」と母の口調でほほ笑みかける兵頭さん。二人だから温かい、二人だから面白い「サヌキモノウチワ」の秘密を垣間見る。

初対面の折、兵頭さんが制作していたのが、ろうそくの火を消すための「御灯明うちわ」だった。ひよろつと長い柄がオビカさんの心をつかみ、基本のデザインが決定した。壁に飾っても、筆立てに入れても映える。

うちの歴史をひもとけば、古墳時代に中国から伝わった木製のものも、「団扇(うちわ)」という言葉が生まれた十世紀頃のものも、ずいぶんと柄が長い。当時は、あおぐというより、邪気を払う道具として、あるいは高貴な人が顔を隠す道具として使われていたという。コロナ時代の「サヌキモノウチワ」は、丸亀うちわならではの柔らかな風と表情豊かで愛らしいデザインが、悪しきものを払ってくれそうに見える。



国の伝統的工芸品である「丸亀うちわ」には47もの工程がある。写真はうちわの骨をつくる「割り」の工程。「切込機」を使い、同じ間隔で32~42本に裂いていく。



一本の竹から幾本ものうちわの骨を削り出していく。



オビカさんの描く讃岐の名物は手ぬぐいにもなっている。

「サヌキモノウチワ」の主な販売店
うちわの港ミュージアム <https://marugameuchiwa.jp>
かがわ物産館「栗林庵」 <https://www.ritsurinan.jp>
イクナス <https://www.ikunas.com>



うちわの港ミュージアム
かつてはこんびら船の港としてにぎわった丸亀港にあり、丸亀うちわの歴史と技を分かりやすく伝え実演と販売も行う。
TEL 0877-24-7055
営業 午前9時30分~午後5時(月曜定休日)

*香川県うちわ協同組合連合会による「丸亀うちわ技術技法講座」。毎年10月頃に1日のみ募集があり、面接により8人が決定。16日間かけてうちわづくりの基礎を習得する。問い合わせは「うちわの港ミュージアム」。



イラストレーター
オビカカズミさん

香川県高松市生まれ。地元の短大卒業後、デザイン会社数社で経験を積んだ後、2006年に独立。県内のみならず東京での個展開催や、企画展への参加など精力的に活動。2021年2月、四国在住の仲間たちと「JPN47 っぽん絵図(講談社刊)」を出版。
<https://obika-kazumi.com/>



香川県伝統工芸士
兵頭 恵子さん

愛知県名古屋生まれ。夫の実家がある香川県へ移り住む。2019年に香川県伝統工芸士の資格を取得。伝統的な丸亀うちわのほかオリジナルの創作うちわに取り組む。「うちわの港ミュージアム」で実演を行うこともある。

丸亀うちわの さぬき風 サヌキモノウチワ

猛暑に清風を届けてくれる「うちわ」
夏に使うものとはばかり思っていたら一年中人気の「うちわ」があるという
日本一のうちわ産地・丸亀市のうちわづくりの技から生まれた「サヌキモノウチワ」
讃岐らしいデザインの数々に暑さも忘れ思わず眺めてしまう

表と裏で表情の違う「讃岐モノ」がデザインされている。

香川・愛媛 せとうち旬彩館

東京・新橋アンテナショップ
特産品ショップ、郷土料理、観光情報コーナーで
香川の旬をぜひどうぞ。

注目はこれ!

せとうち旬彩館の人気商品をご紹介します。

1階「特産品ショップ」では、香川・愛媛合わせて約3,500点の特産品を取り扱い、皆さまに香川の味をお届けしています。
今回は、2020年度の香川の特産品の人気商品ベスト10をご紹介します。



- 4位 瀬戸内の早どれ海苔・わけあり (金丸水産乾物)
- 5位 生うどん (日の出製麺所)
- 6位 低塩だし醤油 (鎌田醤油)
- 7位 だし醤油 (鎌田醤油)
- 8位 観音寺 (白栄堂)
- 9位 あん餅 (かねすえ)
- 10位 純生うどん (日の出製麺所)

これからも、2階の郷土料理レストラン「かおりひめ」とともに、
香川の魅力を首都圏の皆さまにお伝えしていきます。

〒105-0004 東京都港区新橋2-19-10新橋マリビル1・2階
http://www.setouchi-shunsaikan.com
観光情報コーナー TEL03-3574-2028

映画『Arc アーク』がいよいよ公開 舞台裏にみる、香川の魅力。



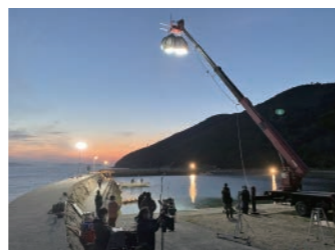
記事対談誌面でご紹介した石川慶監督の映画『Arc アーク』がいよいよ公開。映画には、撮影の舞台となった香川県のさまざまな場所が登場します。

映画の特報映像でも特徴的な場面に登場するセットが組まれたのは香川県庁舎東館。文化的価値の高い空間が、作品の世界観を支えています。

小豆島での撮影は、浜辺や瀬戸内海を見渡せる高台といった、瀬戸内海の島の特徴である穏やかで美しい海が広がる場所で行われました。

建築や自然だけでなく、自然に溶け込んだアートも楽しめる香川県は、日常の風景に「特別」があふれています。コロナが収まった後には、映画のロケ地を巡りながら、ゆっくりと香

川の魅力を楽しんでみてはいかがでしょうか。



配給:ワーナー・ブラザーズ映画
©2021 映画『Arc』製作委員会

うどんとお酒で、おいしい時間を。 「うどんに合う酒」

かがわの食 Happyプロジェクト

「うどんに合う酒」は、米のうま味や酸味を引き出したすっきりとした味わいが特長で、おいしいうどんと特別な時間を楽しんでもらうために造られた、香川ならではの地酒です。

6月からは県内の高校生がデザインしたラベルに衣替え。親しみやすく目を引くデザインで、うどんとセットで贈り物にも最適です。

県内の酒店や旅館のほか、栗林公園にある、かがわ物産館「栗林庵」などで販売しています。詳しくは、「かがわの食」で検索して、プロジェクト公式サイトをご覧ください。



全3種類で、県内3つの酒造メーカーがそれぞれの技を生かして製造。

【問い合わせ】香川県産品振興課 TEL087-832-3385
https://www.kensanpin.org/umaimon/udonsake/

理想の人生を応援します 移住ポータルサイト「かがわ暮(ぐ)らし」

香川県は、瀬戸内の温暖な気候や、災害が少ないという恵まれた自然環境に加え、都市の持つ利便性と、「世界の宝石」とも称される瀬戸内海をはじめとする豊かな自然が調和して、移住先として多くの人々に選ばれています。



これから香川に移住をお考えの方は、移住ポータルサイト「かがわ暮(ぐ)らし」をご利用ください。サイト内では、香川の魅力や住まい、仕事、子育て支援などに関する情報を、「知る」「暮らす」「働く」「住む」の4つの項目で分かりやすく紹介。

移住体験談や相談窓口のほか、移住した後の暮らしに役立つ情報も掲載しています。

好きなことをしたい、長年の夢を叶えたい。皆さんの理想の人生を、香川県は応援しています。



笑顔と涙の花が咲く。 全国高校生花いけバトル



「全国高校生花いけバトル」が、今年も全国で始まります。若い世代にも花きに親しんでほしいという思いから香川で生まれたこの大会は、今年で5回目の開催。夏から全国各地で行われる地区大会を勝ち抜いた12チームが、来年1月に香川県で開催される決勝大会で頂点を目指し、熱いバトルを繰り広げます。

見どころは、高校生2人組のバトルが、5分間という短い時間内に、用意された花材を選び即興で花を生ける中に生まれるドラマ。高校生が時折見せる笑顔や泣き顔は、花の美しさと相まって心を打ちます。

また、決勝大会では、香川県産のキク、カーネーション、ランタンキュラス、オリーブなども使用されます。多彩な花材の魅力も、ぜひ、お楽しみください。大会について詳しくは、公式ホームページをご覧ください。

【問い合わせ】全国高校生花いけバトル実行委員会 TEL087-832-3419
全国高校生花いけバトル公式ウェブサイト
https://hs.hanaikebattle.com/

県HPページID 香川県ホームページのトップページ上部にある「ページID検索」に番号を入力するだけで該当ページをご覧いただけます。

(注)掲載のイベントは、新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、中止または内容に変更が生じることがあります。

東京・大阪で開催 香川県移住フェア

香川県への移住をお考えの方は、「香川県移住フェア」へご来場ください。就職や子育て、住まいなど移住に関する不安を解消できる個別相談ブースをはじめ、先輩移住者の体験談など、移住や香川県の魅力情報が盛りだくさんのイベントです。参加無料、申し込み不要。

【実施日時】
東京 7月4日(日)午前11時～午後4時(東京交通会館12階カトリアサロンB)
大阪 9月5日(日)午前11時～午後4時(難波御堂筋ホール10階ホール10)

県外事業者の取り組みも支援 サテライトオフィスは香川県で

香川県内にサテライトオフィスを開設する取り組みへの支援制度をご用意しています。例えば、県外事業者が移住を伴い、事業所として使用するために購入した空き家の改修費に対する助成など。詳しくは、移住ポータルサイト「かがわ暮(ぐ)らし」をご覧ください。

【問い合わせ】香川県地域活力推進課 TEL087-832-3125
https://www.kagawalife.jp/



「しあわせぐるり、しこくろり。」 四国デスティネーション キャンペーン

10月1日から12月31日まで、「四国デスティネーションキャンペーン(四国DC)」が開催されます。DCは、JRグループ6社と地方自治体・旅行会社などが連携して実施する、国内最大級の大型観光キャンペーン。四国では、2017年以来、4年ぶりの開催となります。

今回のキャッチコピーは「四国の風・水・色を感じて」。海を巡りくる潮風、海や川の清く透き通る水、紅葉に染まる山間など、四国ならではの自然美を存分にご堪能いただきたいという思いが込められています。

この機会に、香川県の知られざる観光地の魅力を、ぜひ、ご体感ください。



【問い合わせ】
香川県観光振興課 TEL087-832-3361
四国DC公式ウェブサイト
https://shikoku-tourism.com/dc (四国ツーリズム創造機構)

香川県ホームページ



心がけよう! 「新しい生活様式」

- 発熱などの症状があるときは 県HPページID 18469
まずは「かかりつけ医などの身近な医療機関」に電話で相談してください。
※どこに相談すればよいか分からないときは下記まで「香川県新型コロナウイルス健康相談コールセンター」
TEL0570-087-550(専用ナビダイヤル)
- 香川県内の新型コロナウイルスの感染状況をご確認ください。 県HPページID 20977
※県公式ツイッターやフェイスブックでも情報を発信しています。
※外出や旅行の前に、目的地の感染状況やお住まいの地域で出されているメッセージを確認してください。
- アプリを使って、感染拡大を防止!
◆新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」
※詳しくは、厚生労働省のウェブサイトをご覧ください。